

## オープン市場短信 (2019年4月)

2019.4.8

### ◆ 3月のCP市場動向

3月末のCP市場残高は、15兆5,294億円となり、一時的な期末要因で前月比大幅に減少(△5兆1,536億円)したが、前年同月比で25カ月連続して増加しており、市場の拡大基調は継続している。業態別残高では、一般事業法人が3兆6,090億円(前月比△5兆1,744億円)、その他金融が8兆8,326億円(同△4,113億円)と減少した。一方、金融機関は1兆5,957億円(同+648億円)、ABC Pは1兆4,921億円(同+3,673億円)と増加した。発行レートは、投資家やディーラーの根強い購入ニーズから、マイナス~0%近辺の出合いであった。

#### 【新発3M物の発行レート】

最上位銘柄(a-1+格) 0.000%割れ 一般事業法人(a-1格) 0.000%割れ~0.009%  
 その他金融銘柄(a-1格) 0.000%割れ~0.033%

#### 【業態別残高内訳】

(単位：億円)

業 態	3月末残高	2月末残高	増 減
一般事業法人	36,090	87,834	-51,744
その他金融	88,326	92,439	-4,113
金融機関	15,957	15,309	648
政府系金融	0	0	0
銀行等	2,790	4,630	-1,840
証券	13,167	10,679	2,488
ABC P	14,921	11,248	3,673
計	155,294	206,830	-51,536

(注：買入消却分含む)

#### 【格付け別の発行レート】

##### 3月のCPLレートレンジ

格 付	1カ月	2カ月	3カ月
a-1+ (一般事業法人)	△ ~ △	△ ~ △	△ ~ △
a-1 (一般事業法人)	△ ~ 0.0175%	△ ~ 0.0000%	△ ~ 0.0090%
a-1+ (リース銘柄)	△ ~ △	△ ~ △	△ ~ △
a-1 (リース銘柄)	— ~ —	△ ~ △	△ ~ 0.0330%
a-2	△ ~ ケ0.15%	0.0000% ~ ケ0.15%	0.0040% ~ ケ0.15%

## 「CPオペ」

CP等買入オペは、オファー額が月間で合計1兆500億円と、前月比4,500億円増加した。按分落札レートはオファー額の増加により、前月からは低下したが（オファー日：5日△0.006%、12日△0.011%）、月内最終のオペでは売却ニーズの強い銘柄の応札が増えたため、若干上昇（同：26日△0.009%）した。

〈月末オペ残高：2兆420億円〉

### 【日銀CP等買入れオペ実績】

（単位：億円）

実施日	実行日	オファー金額	応札額	落札額	按分・全取	平均落札	按分比率
3月5日	3月8日	3,500	7,665	3,492	-0.006%	0.000%	30.6%
3月12日	3月15日	3,500	8,505	3,490	-0.011%	-0.009%	80.8%
3月26日	3月29日	3,500	8,114	3,490	-0.009%	-0.005%	33.3%

## 「ABC P」

ABC Pは、四半期末要因により増加し1兆4,921億円（前月比+3,673億円）となった。なお、前年同月比では、ほぼ横這いであった。

## 「短期社債登録状況」

証券保管振替機構によると、3月末時点における発行登録企業数は、竹中工務店が新規登録を行い、1社増の523社となった。

## 「CP現先市場」

現先（S/N）レートは運用ニーズ強く、マイナス～0%近辺での出会いで0%では引き続き買い残り状態となっていた。

### ◆ 4月のCP市場動向

4月のCP発行市場は、決算期末に有利子負債の削減を行った事業法人の発行再開により、月間の償還額（約2兆300億円）を大幅に上回る発行が見込まれる。月末発行残高は、前月末（15兆5,294億円）を上回る18兆円台後半となり、前年同月比で26カ月連続のプラスになると予想する。月の前半は、商社や鉄鋼等の一部の業態の発行に偏っているものの、月の後半からは様々な業種から大型連休越

えの発行を中心に案件が増加し、マーケットは活況を呈するだろう。発行レートは、0%近辺からマイナスレートでの出合いを予想する。

#### «CPオペ»

3月のCP等買入オペは、決算期末の需給要因から按分レート・平均落札レート共に前月比低下となった。今月のオペのオファー額は、前月より6,000億円減額され合計4,500億円の予定となっている。この金額は、2013年4月の「量的・質的金融緩和」の導入以降、最小規模の買入額であることから、レートは強含み横ばいを予想する。

#### «CP現先市場»

CP現先レートは、投資家の運用ニーズが強く、引き続きマイナスから0%近辺での出合いであろう。

参考資料 (出所：証券保管振替機構)

#### 【3月末発行残高 上位10社】

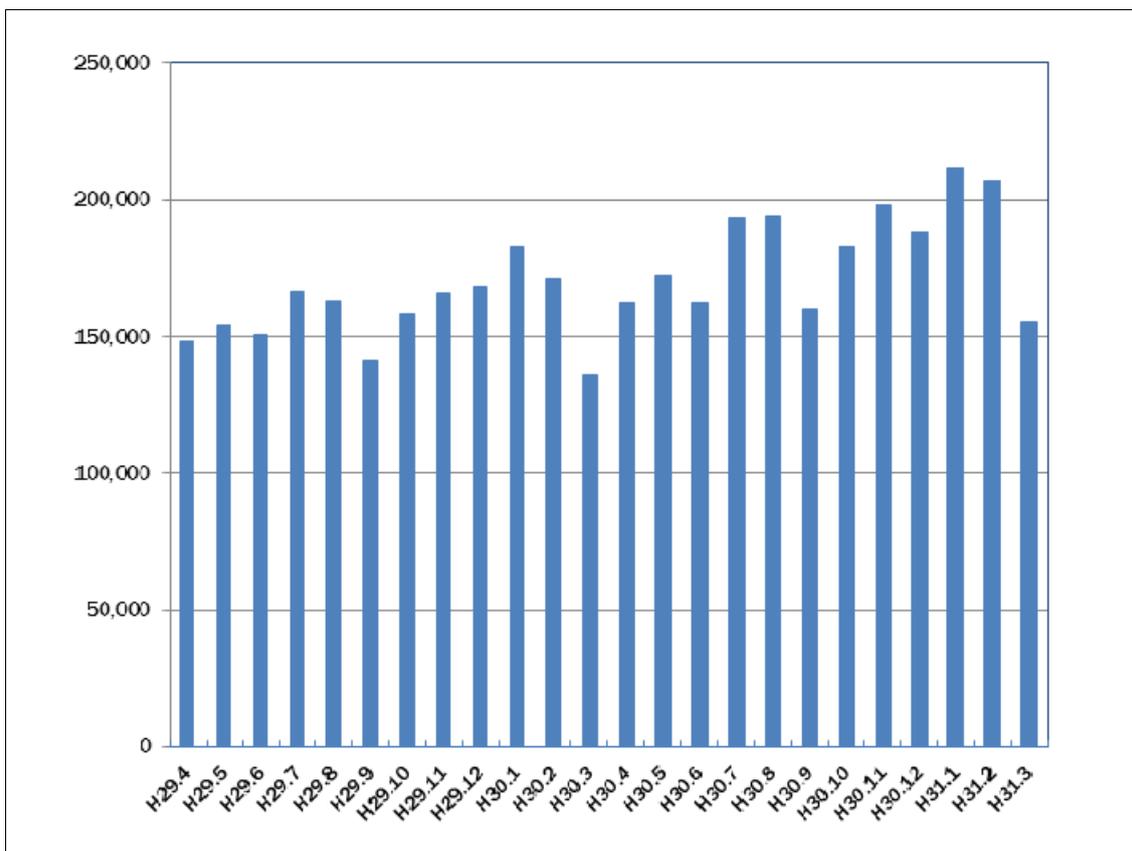
(単位：億円)

	発行企業名	3月末残高	2月末残高
1	三井住友ファイナンス&リース	10,409	10,469
2	三菱UFJリース	7,332	8,045
3	東京センチュリー	6,397	6,499
4	コンチェルト・レシーバブルズ・コーポレーション	5,639	4,442
5	興銀リース	5,500	5,500
6	クレディセゾン	5,110	5,610
7	芙蓉総合リース	4,297	4,052
8	ジャックス	4,160	4,130
9	三菱UFJニコス	3,780	4,270
10	JA三井リース	3,750	4,010

## 【短期社債市場残高】

(2017年4月～2019年3月)

(単位：億円)



本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。

上田八木短資株式会社

登録金融機関 近畿財務局長（登金）第 243 号

大阪本社 〒 541-0043 大阪市中央区高麗橋 2 丁目 4 番 2 号

東京本社 〒 103-0022 東京都中央区日本橋室町 1 丁目 2 番 3 号

加入協会 日本証券業協会